#### 研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 6 年 5 月 2 9 日現在

機関番号: 14501

研究種目: 基盤研究(B)(一般)

研究期間: 2019~2023

課題番号: 19H01185

研究課題名(和文)哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察

研究課題名(英文) A Project on Fusing Philosophical Practices and Self-Directed Studies (Tojiśha-kenkyu): ăn Investigation of Dialogue and Support for Minority Groups

#### 研究代表者

稲原 美苗(Inahara, Minae)

神戸大学・人間発達環境学研究科・准教授

研究者番号:00645997

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 12,700,000円

研究成果の概要(和文): 本研究では、マイノリティ当事者(障害者、被災者、不登校者、子ども、定時制高等学校の関係者、支援者、保護者など)との対話を実践し、また、マイノリティ当事者のための実践をしている実践者や研究者を招き、学際的な研究を実施した。コロナ禍でオンライン中心となったものの、哲学、現象学、社会教育、リスク学、教育工学などの研究者が集まり、学際的に議論を重ね、当事者と支援者、コミュニティとのつながり、支援や教育のあり方について再考した。結果、マイノリティ当事者が自らの経験を自分の言葉で語り、自分たちで考えた。 ポジトリにて公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義本研究は、マイノリティ当事者だけではなく、支援者やアライ(支持者など)との対話的なつながりについて考察することによって、生きづらさや問題を共に探究することができる支援や教育のあり方を示唆することになった。また、生きづらさや問題を解決に導くために、支援者やアライを含む広義の「当事者性」を採用する必要性を明らかにしている。さらに、本研究は、哲学的対話の実践があらゆる問題を共に捉え直す態度を習得し、問題解決への糸口を見つける力をつけることにつながることも明らかにしている。

研究成果の概要(英文):This project brought together practitioners, researchers and others whom have been engaged in ongoing dialogue with minority groups (people with disabilities, disaster victims, truants, children, those involved in night schools, their supporters, their parents, etc.) to consider the power of philosophical dialogue.

After the COVID-19 pandemic, the world as it had been before became extraordinary and disparities widened as never before. While online-centered practices continued in this context, the significance of allowing minority groups to speak about their experiences in their own words and think for themselves was highlighted. In this study, researchers in philosophy, phenomenology, social education, risk studies and educational technology gathered for interdisciplinary discussions to reconsider the connection between the minority groups, their supporters, and communities and to reassess the meanings of support and education. The final research report was published in a repository.

研究分野: 臨床哲学

キーワード: 哲学プラクティス 哲学対話 当事者研究 マイノリティ 現象学 社会教育 学際的研究 臨床哲学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1.研究開始当初の背景

- (1)「哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」(2019~2023年度基盤研究 B、課題番号 19H01185)の研究プロジェクトの中で、研究代表者の稲原美苗と分担者の梶谷真司、池田喬は、哲学プラクティスの観点から対話実践がマイノリティ当事者のエンパワメントにつながると考えてきた。特に、稲原と池田がこれまで研究してきた当事者研究を再考し、当事者と非当事者をつなげる対話実践の可能性について考え始めていた。さらに、梶谷は、P4E(philosophy for everyone 「みんなのための哲学」)の実践を長年続け、その中で参加者たちが多様性や包摂性について学び合う機会を増やし、対話の場づくりについて考えてきた。当初、梶谷、池田、稲原の3人が話し合い、本研究プロジェクトの企画を出した。
- (2)本研究の代表者及び分担者たちは、ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティ、貧困、障害、疾病、加齢、災害、不登校などが理由で、社会的属性が少数派に位置する者の立場やその集団(マイノリティ)を主題にした学際的研究や対話実践を続けてきた。マイノリティ当事者にとって「生きづらさ」を自分で「考える・語る・表現する」ことが重大な意義をもつという認識に至り、「対話」を共通テーマとする実践研究の構想に至った。本研究は、哲学・倫理学、臨床哲学、当事者研究、ジェンダー学、社会教育学、リスク学、教育工学などの領域の知見を取り入れ、対話実践を支援に繋げること、そして、各分野の知見を総合し、その成果を教育・医療・福祉の現場にフィードバックすることを目的として設定した。

### 2.研究の目的

- (1)本研究は、ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティ、貧困、障害、疾病、加齢、不登校など社会の中でマイノリティの境遇に立たされる人たちの対話から経験を記述し、彼らの支援を改善することを目的とする。そのために必要な研究を次の3つの部門に分け、それぞれの分野で研究した上でその成果を総合する。 マイノリティの経験の現象学的記述、 マイノリティのための哲学対話実践の開発、 マイノリティに対する意識改革のあり方についての探究である。本研究の中での「哲学プラクティス」とは、主に哲学対話という方法を用いながら、哲学的な課題について共同で探究する実践活動を示し、「哲学対話」とは、参加者一人一人が興味関心あることに関して問いを出し、その問いについて考え、考えたことを言葉にして語り、他者の意見を聞くことを続け、共に考える実践である。本研究では、マイノリティ当事者が日常生活の中でもっている問いについて自分自身で、共に探究し続ける態度や学びを考察する。
- (2)本研究の目的は、マイノリティ性と共に生きている当事者のための哲学対話実践が共生社会の実現にどう貢献できるか、その有用性について探究し、哲学プラクティスを当事者一人一人の支援の向上につなげる端緒を開くことである。本研究の独自性・創造性として、次のような諸点を挙げることができる。第一に、これまで当事者研究として実践されてきたマイノリティ性と共に生きている当事者の対話・表現活動を哲学(主に現象学)の観点から分析する点である。第二に、当事者同士だけでなく、非当事者がマイノリティ当事者から学ぶとはどのようなことかを考察する点である。(本研究では、当事者/非当事者という二項対立的な考え方ではなく、異なる特性をもった当事者性が重なるということを想定している。)第三に、研究代表者と分担者がそれぞれの実践現場に密着し、対話・マイノリティ支援の総合的把握を目指している点である。

## 3.研究の方法

- (1)2019~2020年度は、それぞれの班に分かれて、マイノリティの課題整理をし、対話実践についての記述を蓄積することになっていた。そのために、当事者のための哲学対話の場の調査を実施する予定だった。しかし、残念ながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、当初計画していた実践先の全てを調査することができなかった。しかし、研究代表者と分担者それぞれが実践を続けてきた場所での対話実践をオンラインなどで開催した。2021~2022年度は、マイノリティ当事者のための哲学プラクティスの有用性について探求することにしていた。ここでは、個々の実践の本質に即して、参加者のエンパワメントに資する有用性を具体的に提起した。2023年度は、以上の研究を通して、マイノリティ支援の中で意識改革を促す哲学プラクティスを総合的に考察し、研究成果を報告書にまとめることになっていた。意識改革については、研究期間全体を通して、定期的に獲得した知見を定期的に共有し、討議を通して妥当性を検討していく機会を作った。具体的には、定期的な研究会の他、国際シンポジウムを実施した。
- (2) 共同研究者それぞれの主な役割は次のとおりである。 当事者の経験についての記述:池田喬・稲原美苗(当事者研究・現象学) 哲学対話の実践研究:ほんまなほ・高橋綾・稲原美苗・中川雅道(臨床哲学)・梶谷真司(P4E) 対話実践の総合的検討:梶谷真司(現象学・哲学プラクティス)・松岡広路(生涯学習論)・津田英二(社会教育&インクルーシヴ教育)・村山留美子(リスク学)・三井規裕(教育工学) 研究総括:稲原美苗(研究代表者)本研究は前述した3つのテーマを各研究班が追究し、その後、互いの知見を総合した「多様な当事者をつなぐ

### 4.研究成果

- (1) 本科研プロジェクトでは、哲学プラクティス(哲学カフェ・哲学対話)と当事者研究の融合について考えてきた。哲学プラクティスやエンパワメントというテーマを取り上げ、対話実践の意義について研究していく中で、マイノリティ当事者のみならず、彼ら/彼女らを囲むアライ(支持者・同盟者・ally)または支援者をつなぐことについて考える必要があることに気づかされた。本研究を通して明らかになったことは、当事者同士が学び合うだけではなく、多様な参加者たちがマイノリティ当事者の語りから学ぶ機会を増やし、個人やコミュニティを変容する力を養うことができることだった。また、新型コロナウイルス感染症拡大、格差社会、そして数多くの自然災害の影響に伴い、コミュニティ内の個々人が分断され、多くの問題に直面している現代社会を生き抜くために「対話がもつ力」を再考し、その有用性を探究してきた。本研究で現象学、社会教育学、リスク学、臨床哲学などを専門とする研究分担者と協同し、私たち一人一人を「当事者」として捉えて、多様な人々と共生するための対話の重要性について考えてきた。
- (2)本科研プロジェクトの対話実践と研究について振り返り、まとめた。コロナ禍の影響で、国内外の研究者との交流や対話実践などが当初の計画通りに進まなかったという反省点が残った。だが、対面での研究交流ができないことを前向きに捉え、オンラインを駆使したシンポジウムを開催した。2023年7月の研究会は対面で、9月の総括シンポジウムは対面とオンラインのハイブリッドで開催された。本科研プロジェクトが主催として開催されたシンポジウム、国際学会発表、研究会を時系列に沿ってリスト化しておく。(各研究分担者は本リスト以外に研究会等を多数開催した。)

日付	イベント	内容
2020年2月23日	シンポジウム「被災地をめぐる哲学 対話 科学・技術・暮らし・芸 術・コミュニケーションを手がかり に 」	本シンポジウムは、阪神淡路大震災から 25 年の節目を迎える神戸で、「被災地」について多角的に再考しようと試みた。 阪神淡路大震災や東日本大震災の被災地の人々に寄り添い、対話実践や調査を続けてきたものが集い、それぞれの実践活動やリスクコミュニケーションについて紹介した。 於:神戸大学(コロナ禍にて、急遽クローズド開催に変更) 村山と稲原が企画運営した。 登壇者: 佐藤豊 (海辺の図書館カメラマン) 大沢佐智子(舞台美術家) 森信子 (Wolf-note) 辻明典(てつがくカフェ@南相馬主宰) 永幡幸司(福島大学) 堀川直子(福島大学) 山川哲 (神戸大学大学院生・当時)
2021年1月30日	オンライン・シンポジウム「不登校 と哲学プラクティス」	不登校という現象は、それほど珍しいことではなくなっている。本シンポジウムでは広い意味で、学校に関わりにくい子どもたちと哲学プラクティスとの関わりについて考えた。それぞれのかたちで哲学プラクティスを実践している支援者たちが、哲学プラクティスと不登校の関わりについて経験を語った。その後、参加者たち共に対話をし、考える時間をもつた。中川と稲原が企画運営登壇者: 赤井郁夫(一般社団法人 Office ひと房の葡萄)村瀬智之(国立東京工業高等専門学校)中川雅道(神戸大学附属中等教育学校)稲原美苗(神戸大学)
2021 年 8 月 14 日	オンライン・シンポジウム 「定時制高等学校の役割と可能性 ~ 哲学プラクティスの視点から ~ 」	「居場所」を失ってしまっている子どもたちが大勢いる。 「居場所」とはどのような場所のことを指すのか。それはその人がその人の存在を何も否定されない、ということに加えて、その人に特別な役割がある、ということだろう。定時制高等学校の教員たち、一般社団法人で居場所づくりをしている支援者がそれぞれの対話実践の取り組みについて語った。 梶谷、中川、稲原が企画運営登壇者: 西山正三(宮崎県立宮崎東高等学校) 寺澤佐世(三重県立名張高等学校) ホ井郁夫(一般社団法人のffice ひと房の葡萄) 村瀬智之(国立東京工業高等専門学校)

2021年12月5日	日本現象学・社会科学会 第 38 回	登壇者に、石田絵美子氏(兵庫医科大学・看護学)、宮原
	大会 (オンライン開催) シンポジウム「現象学とエンパワメント」	優氏(立命館大学・現象学) そして前田拓也氏(神戸学院大学・社会学)を迎え、学際的な研究交流を行い、当事者が語ること、当事者の語りを聞くことの重要性について議論した。
		池田と稲原がシンポジウムを企画・運営し、司会を務め た。
2022年8月9日	第 20 回子どもの哲学国際学会 (The 20th Biennial International ICPIC Conference)	た。 池田 & 稲原、中川が口頭発表 於:立教大学、ハイブリッド開催 (使用言語:英語)
2023年2月23日	オンライン・シンポジウム「当事者 「家族」のための哲学対話~家族の 「普通」を問い直す~」	「家族とは何なのか?」「家族と共に暮らすということは どのような経験なのか?」 障害のある家族と暮らしてきた当事者たち、乳幼児の母 親たちと哲学対話をしてきた実践者が対話の意義につい て語った。それぞれの経験から問題にアプローチし、家 族をめぐる「当たり前」を問い直した。 池田と稲原が企画運営 登壇者 足高聖子(保護者) 髙木佑透(『僕とオトウト』映画監督) 尾崎絢子(はなこ哲学カフェ主宰)
2023年7月27日	G.ビースタの P4C 批判とその行方 - 哲学プラクティスの現在への一視 角	近年、P4C や哲学対話が教育現場で実践されるようになってきた。しかし、哲学を学校教育のために利用する(哲学の道具化)という観点から オランダの教育学者 G.ビースタは P4C を用いた教育実践を批判した。この研究会では、ビースタの P4C 批判を受け止め、日本で P4C の実践研究してきた 3 人に登壇していただき、この批判の意義と限界は何か、この批判の後にどのような P4C を実践していくのかという問いについて考えた。於:明治大学池田が企画運営登壇者堀越耀介(東京大学)土屋陽介(開智国際大学)後藤美乃理(東京大学)
2023 年 9 月 24・25 日	哲学対話と当事者研究についての総括シンポジウム (国際シンポジウム)	本科研プロジェクト 「哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」の総括シンポジウムを開催した。ハワイで長年 p4c (子どものための哲学)の実践研究を続けている Benjamin Lukey 氏をゲストスピーカーとして招へいし、プロジェクトメンバー、および p4c や哲学対話などの実践をしている 13 名に登壇していただき、対話実践の中の当事者性などをテーマに考えた。於:東京大学駒場キャンパス、ハイブリッド開催梶谷と稲原が企画運営(使用言語:英語・日本語)登壇者 Benjamin Lukey(ハワイ大学マノア校) 渡邊文(ハワイ大学マノア校) Michael Gillan Peckitt (同志社大学) 堀越耀介(東京大学) 柏木睦月(十文字学園女子大学) 神戸和佳子(長野県立大学) 上館誠也(株式会社 ShiruBe) 梶谷真司(東京大学) 池田喬 (明治大学) 津田英二(神戸大学) 中川雅道(神戸大学) 「ほんまなほ(大阪大学)高橋綾 (大阪大学)高橋綾 (大阪大学)高橋綾 (本戸大学)

(3)本研究プロジェクトの対話実践の中で、当事者も非当事者も含まれる参加者が共に聞き、語り、考えることによって、異なる考え方が少しずつ言語化され、相互に理解が可能になるという見解に至った。この相互理解可能性は、それぞれの価値観や考え方をすり合わせて、再形成し、何がどのようにその人を生きづらくしているのかということを言語化し、問題的事象について考えることができるようにする少しずつ問題解決へと導くきっかけになり得る。このように本人の生きづらさを理解することは、非常に個別性が高く、枠にはめて捉えることが困難だという

ことは明確である。そこで、対話が必要である。まず対話を通して、自分の生きづらさを他者に伝えるために、少しずつ言語化を試みることから始めた。その中で異なる意見を聞くことによって、自分の考えの前提に気づき、自分の生きづらさをより広い文脈で理解できるようになる。また、自分の生きづらさを自分の言葉で語り、他者と問い合うことで、自分も他者も尊重し、生きづらさ(自分と他者の違い)を受け止められるようになる。共に考えることによって、生きづらさという問題的事象を相互に理解し、信頼し合える人間関係を築くことも可能になると期待した。

(4) 本研究プロジェクトの研究代表者と研究分担者が個別に実施してきた調査についてまとめ る。研究代表者の稲原は、対話実践の中で語られた障害者の経験を現象学的に考察してきたが、 9 名の研究分担者と共に本研究を展開させるうちに、当事者研究とは異なる対話実践の必要性に 気づいた。研究分担者の梶谷は、経験豊富な哲学対話実践者であり、長年にわたって哲学対話の 本質について調査を続けてきた。特に、本研究では、定時制高等学校での哲学対話実践がいかに 学びの場を変容させるのかについて考察した。池田は、日本哲学プラクティス学会の中心メンバ ーとして多くの実践を分析してきた。稲原と共に国際学会で発表をし、対話が当事者にもたらす エンパワメントについて理論的に説明し、体系的に整理した。ほんまと高橋は、大阪大学での対 話実践を続けてきた。高橋は、水俣病患者の表現について深く掘り下げて考え、ほんまは「当事 者とは誰なのか」という本質的な問いについて考えた。松岡は、自身の社会教育・生涯学習プラ ットフォーム創成事業を振り返り、当事者性を広くとらえることによって当事者と非当事者を つなぐ対話実践について考察した。津田は、知的障害者向けの正規教育プログラムの中での、哲 学対話実践を取り上げ、P4C(子どものための哲学)と当事者研究との関係性を示唆した。村山 は、リスク学の見地から、被災地域でのリスクコミュニケーションにおける対話の可能性につい て方向を示した。中川は、神戸大学附属中等教育学校での p4c Hawaii (ハワイで行われている 子どものための哲学)の実践について調査を続けた。そして、三井は、稲原と共にオンラインで の哲学対話実践を 2 年間続けた経験を振り返り、対話の場にある不安感や懸念を解消するため にファシリテーションの在り方を考察した。

(7)2024年3月に本科研プロジェクトの研究結果報告書として『哲学対話と当事者性』を刊行した。この報告書は、研究代表者と分担者の研究成果報告、そして、2023年9月24・25日に東京大学駒場キャンパスで開催された国際シンポジウムで登壇してくださった方々の研究報告をまとめたものになっている。『哲学対話と当事者性』に収録されている論文は、神戸大学附属図書館の学術成果リポジトリにて公開されている。

#### < 引用文献 >

稲原美苗(編)(2024)『哲学対話と当事者性 2019-23 年度科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号:19H01185)「哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書』

## 5 . 主な発表論文等

「雑誌論文〕 計32件(うち査読付論文 15件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 16件)

「推祕論又」 司32件(フ9直続り論文 13件/フ9国际共省 0件/フ9オーフファクピス 10件/	
1 . 著者名 稲原美苗	4.巻
2 . 論文標題 対話の現象学 ~ 自分の経験と考えを自分の言葉で語ることの意義 ~	5 . 発行年 2024年
3.雑誌名 哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号:19H01185)「哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書	6.最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1.著者名 梶谷真司	4 . 巻 0
2 . 論文標題 アクティビティではなくスピリットとしての哲学対話 ~ 宮崎東高校定時制夜間部での実践 ~	5.発行年 2024年
3.雑誌名 哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号:19H01185)「哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書	6 . 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
. ***	. 14
1.著者名 IKEDA Takashi	4.巻 0
2. 論文標題 Philosophical Dialogue and Empowerment	5 . 発行年 2024年
3.雑誌名 哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号:19H01185)「哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書	6.最初と最後の頁 35-43
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 ほんまなほ	無 国際共著 - 4.巻 0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 ほんまなほ 2 . 論文標題	無 国際共著 - 4.巻 0 5.発行年
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	無 国際共著 - 4 . 巻 0 5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 ほんまなほ  2 . 論文標題 さようなら 当事者 マイノリティとインターセクショナリティをめぐる手紙  3 . 雑誌名 哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号:19H01185)「哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	無 国際共著 - 4 . 巻 0 5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 44-59

1 . 著者名 高橋綾	4 . 巻 0
2. 論文標題 水俣を歌う、柏木敏治さんの活動 水俣病事件と「表現」活動について	5 . 発行年 2024年
3. 雑誌名 哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号:19H01185)「哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書	6.最初と最後の頁 60-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1 . 著者名 松岡広路	4.巻
2 . 論文標題 社会教育・プラットフォーム創成事業における対話実践の課題	5 . 発行年 2024年
3.雑誌名 哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号:19H01185)「哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書	6.最初と最後の頁 75-83
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1 . 著者名 津田英二	4.巻
2. 論文標題 神戸大学「学ぶ楽しみ発見プログラム」における知的障害者の自己についての語り	5 . 発行年 2024年
3.雑誌名 哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号:19H01185)「哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書	6.最初と最後の頁 84-91
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1.著者名 村山留美子	4.巻
2 . 論文標題 リスクコミュニケーションと対話ー被災地での調査で学んだこと	5.発行年 2024年
3.雑誌名 哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号:19H01185)「哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書	6.最初と最後の頁 92-96
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無
オープンアクセス	国際共著

1.著者名	4 . 巻
中川雅道	0
2 . 論文標題	5 . 発行年
	_
条件は、愛 Only Love is needed	2024年
0. 1824.07	C = 171   174 o =
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号:19H01185)「哲学プラク	97-102
ティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無 無
<i>A</i> 0	***
オープンアクセス	国際共著
	国际共有
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1.著者名	4 . 巻
三井規裕 稲原美苗	0
2.論文標題	5.発行年
<del>, , , , , , , , , , , , , , , , , , , </del>	
対話の場にある懸念を解消するファシリテーションの在り方の検討	2024年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号:19H01185)「哲学プラク	103-111
ティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
	_
1 . 著者名	4 . 巻
稲原美苗	8
旧水大田	
2 . 論文標題	F 整件左
·····	5.発行年
コロナ禍でみえてきたもの ニューノーマルと障害者についての哲学的考察	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
3.雑誌名 法と哲学	6.最初と最後の頁 107-132
法と哲学	107-132
法と哲学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	107-132 査読の有無
法と哲学	107-132
法と哲学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	107-132 査読の有無 有
法と哲学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	107-132 査読の有無
法と哲学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	107-132 査読の有無 有
法と哲学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	107-132 査読の有無 有
法と哲学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	107-132 査読の有無 有 国際共著
活と哲学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	107-132 査読の有無 有 国際共著 -
法と哲学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	107-132 査読の有無 有 国際共著
接載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 池田喬・堀田義太郎	107-132 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 613
<ul> <li>法と哲学</li> <li>掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし</li> <li>オープンアクセス</li></ul>	107-132 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 613 5 . 発行年
接載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 池田喬・堀田義太郎	107-132 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 613
接載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 池田喬・堀田義太郎 2 . 論文標題 哲学から差別を考える:差別の意味・不当さ・根深さ	107-132 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 613 5 . 発行年 2023年
<ul> <li>法と哲学</li> <li>掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし</li> <li>オープンアクセス</li></ul>	107-132 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 613 5 . 発行年
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	107-132 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 613 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁
接載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 池田喬・堀田義太郎 2 . 論文標題 哲学から差別を考える:差別の意味・不当さ・根深さ	107-132 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 613 5 . 発行年 2023年
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし   オープンアクセス	107-132 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 613 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし	107-132  査読の有無 有 国際共著 -  4 . 巻 613  5 . 発行年 2023年  6 . 最初と最後の頁 10-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 . 著者名 池田喬・堀田義太郎  2 . 論文標題 哲学から差別を考える: 差別の意味・不当さ・根深さ  3 . 雑誌名 『月報司法書士』	107-132  査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 613 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 10-21  査読の有無
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	107-132  査読の有無 有 国際共著 -  4 . 巻 613  5 . 発行年 2023年  6 . 最初と最後の頁 10-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 池田喬・堀田義太郎 2 . 論文標題 哲学から差別を考える:差別の意味・不当さ・根深さ 3 . 雑誌名 『月報司法書士』 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	107-132  査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 613  5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 10-21  査読の有無 無
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 . 著者名 池田喬・堀田義太郎  2 . 論文標題 哲学から差別を考える: 差別の意味・不当さ・根深さ  3 . 雑誌名 『月報司法書士』	107-132  査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 613 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 10-21  査読の有無
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	107-132  査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 613  5 . 発行年 2023年  6 . 最初と最後の頁 10-21  査読の有無 無

1.著者名 KAJITANI Shinji	4.巻
2.論文標題 Think Together, Be Together: Inclusive Philosophy and the New Principle of Community	5.発行年 2022年
3.雑誌名 Psychy Techn: Sospechas sobre una Relacin Intrincada, edited by Fernando Beresak, Bitcora de la BVF	6.最初と最後の頁 0-0
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1 . 著者名 稲原美苗・三井規裕	4.巻
2 . 論文標題 哲学カフェ企画運営から大学生が得た学びの検討 立場や考え方の異なる他者との対話実践	5 . 発行年 2022年
3.雑誌名 思考と対話	6.最初と最後の頁 68-74
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	   査読の有無   有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1.著者名 INAHARA Minae	4.巻
2 . 論文標題 A Dialogue between the Body Schema and the Body Image: A Case of Mild Athetoid Cerebral Palsy	5 . 発行年 2023年
3.雑誌名 PHILOSOPHY & CULTURAL EMBODIMENT	6.最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	   査読の有無   有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名 三井規裕・阿部一晴	4.巻 18
2 . 論文標題 グループ学習を中心とした同時双方向型オンライン授業の学生の評価	5.発行年 2022年
3.雑誌名 情報コミュニケーション学会誌	6.最初と最後の頁 29-35
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし	   査読の有無   有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著

高橋綾       5         2 . 論文標題 「生き延びることの倫理:非規範的なジェンダー・セクシュアリティと ボールルーム・カルチャー」の特集にあたって       5 . 発行年2023年 集にあたって         3 . 雑誌名 臨床哲学ニューズレター       6 . 最初と最後の頁96-7         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし       面際共著 イーブンアクセス         1 . 著者名高橋綾・ほんまなほ       4 . 巻 5         2 . 論文標題(解説) Paris is Burning とボールルーム・カルチャー (解説) Paris is Burning とボールルーム・カルチャー       5 . 発行年2023年 2023年         3 . 雑誌名 臨床哲学ニューズレター 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし       6 . 最初と最後の頁98-101         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし       査読の有無 無 オーブンアクセス         オーブンアクセス       国際共著		
2.	1.著者名	4 . 巻
( 注意度びることの倫理: 非規能的なジェングー・セクシュアリティと ボールルーム・カルチャー」の特 無にあたって。	高橋綾	5
( 注意度びることの倫理: 非規能的なジェングー・セクシュアリティと ボールルーム・カルチャー」の特 無にあたって。		
集化&たって 3・ 競技の 5・ 最初と最後の頁 96-7	2 . 論文標題	5.発行年
集化&たって 3・ 競技の 5・ 最初と最後の頁 96-7	「生き延びることの倫理:非規範的なジェンダー・セクシュアリティと ボールルーム・カルチャー」の特	2023年
3 ・ 無終名 臨床哲学ニューズレター 掲載論文の001(デジタルオブジェクト選別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 ・ 著名名 高機験・ほんまなほ 2 ・ 論文標題 (構設・) Paris is Burning とボールルーム・カルチャー		
職職論文の001 (デジタルオブジェクト識別子) 直読の有無 有		6 是却と是後の百
根頼論文の001(デジタルオブジェクト識別子)		
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著名名 高橋綾・ほんまなほ 2. 論文標題 (解説) Paris is Burning とポールルーム・カルチャー 3. 雑誌名 臨床哲学ニューズレター 掲載論文の001(デジタルオプジェクト講別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著名名 高橋綾 2. 論文標題 ボールルーム・カルチャーとその表現をどう考えるか: エージェンシーと文化運動 3. 雑誌名 臨床哲学ニューズレター 第職論文の001(デジタルオプジェクト講別子) なは オープンアクセス 国際共著  4. 巻 5 5. 発行年 2023年 2023年 122-130 13. 雑誌名 成珠哲学ニューズレター 第職論文の001(デジタルオプジェクト講別子) なし オープンアクセス 国際共著  4. 巻 5 5. 発行年 2023年 3. 雑誌名 高名 高名 高名 高名 高名 3. 雑誌名 高子、学科学社会の行業者を受ける場合に関する参加高校生の評価 3. 雑誌名 二井規寺・森川修・尾室真郷 2. 論文標題 高等学化単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価 3. 独誌名 大学人誌研究ジャーナル 掲載論文の001(デジタルオプジェクト講別子) なし オープンアクセス 国際共著	臨床哲字ニュースレター	96-7
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著名名 高橋綾・ほんまなほ 2. 論文標題 (解説) Paris is Burning とポールルーム・カルチャー 3. 雑誌名 臨床哲学ニューズレター 掲載論文の001(デジタルオプジェクト講別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著名名 高橋綾 2. 論文標題 ボールルーム・カルチャーとその表現をどう考えるか: エージェンシーと文化運動 3. 雑誌名 臨床哲学ニューズレター 第職論文の001(デジタルオプジェクト講別子) なは オープンアクセス 国際共著  4. 巻 5 5. 発行年 2023年 2023年 122-130 13. 雑誌名 成珠哲学ニューズレター 第職論文の001(デジタルオプジェクト講別子) なし オープンアクセス 国際共著  4. 巻 5 5. 発行年 2023年 3. 雑誌名 高名 高名 高名 高名 高名 3. 雑誌名 高子、学科学社会の行業者を受ける場合に関する参加高校生の評価 3. 雑誌名 二井規寺・森川修・尾室真郷 2. 論文標題 高等学化単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価 3. 独誌名 大学人誌研究ジャーナル 掲載論文の001(デジタルオプジェクト講別子) なし オープンアクセス 国際共著		
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著名名 高橋綾・ほんまなほ 2. 論文標題 (解説) Paris is Burning とポールルーム・カルチャー 3. 雑誌名 臨床哲学ニューズレター 掲載論文の001(デジタルオプジェクト講別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著名名 高橋綾 2. 論文標題 ボールルーム・カルチャーとその表現をどう考えるか: エージェンシーと文化運動 3. 雑誌名 臨床哲学ニューズレター 第職論文の001(デジタルオプジェクト講別子) なは オープンアクセス 国際共著  4. 巻 5 5. 発行年 2023年 2023年 122-130 13. 雑誌名 成珠哲学ニューズレター 第職論文の001(デジタルオプジェクト講別子) なし オープンアクセス 国際共著  4. 巻 5 5. 発行年 2023年 3. 雑誌名 高名 高名 高名 高名 高名 3. 雑誌名 高子、学科学社会の行業者を受ける場合に関する参加高校生の評価 3. 雑誌名 二井規寺・森川修・尾室真郷 2. 論文標題 高等学化単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価 3. 独誌名 大学人誌研究ジャーナル 掲載論文の001(デジタルオプジェクト講別子) なし オープンアクセス 国際共著	提載会立のDOL(ごジタリオブジェクト辨別ス)	本芸の方無
1 著名名 高橋族 にんまなほ 5 発行年 2023年 3 雑誌名 6 最初と最後の頁 98-101 2 2 論文権題 5 発行年 2023年 3 雑誌名 6 品	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
1 著名名 高橋版・ほんまなほ 2 論文傳題 (解説)Paris is Burning とボールルーム・カルチャー 3 雑誌名 (の 最初と最後の頁 98・101	なし	有
1 著名名 高橋版・ほんまなほ 2 論文傳題 (解説)Paris is Burning とボールルーム・カルチャー 3 雑誌名 (の 最初と最後の頁 98・101	オープンアクセフ	国際仕茎
1 ・ 著名名 高橋綾・ほんまなほ 2 ・ 競叉標題 5 ・ 発行年 2023年 2023年 2023年 2023年 2023年 3 ・ 雑誌名 6 ・ 最初と最後の頁 88・101 2		国际八百 -
高橋綾・ほんまなほ       5       ・飛行年 2023年         2 . 論文様題 (解説) Paris is Burning とボールルーム・カルチャー       5 . 飛行年 2023年         3 . 雑誌名 (解説) Paris is Burning とボールルーム・カルチャー       6 . 最初と最後の頁 88-101         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       国際共著 .         1 . 著名名 (高橋綾 2 . 論文様題 ボールルーム・カルチャーとその表現をどう考えるか: エージェンシーと文化運動 2 . 施女様題	カープンテクと人ではない、人はカープンテクと人が四年	
高橋綾・ほんまなほ       5       ・飛行年 2023年         2 . 論文様題 (解説) Paris is Burning とボールルーム・カルチャー       5 . 飛行年 2023年         3 . 雑誌名 (解説) Paris is Burning とボールルーム・カルチャー       6 . 最初と最後の頁 88-101         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       国際共著 .         1 . 著名名 (高橋綾 2 . 論文様題 ボールルーム・カルチャーとその表現をどう考えるか: エージェンシーと文化運動 2 . 施女様題	1 苯老名	4
2 - 論文標題 (解説 Paris is Burning とポールルーム・カルチャー  3 - 雑誌名 臨床哲学ニューズレター  4 - 巻 高橋被 オープンアクセス フとの表現をどう考えるか: エージェンシーと文化運動 ス・ガールルーム・カルチャーとその表現をどう考えるか: エージェンシーと文化運動 ス・ガールルーム・カルチャーとその表現をどう考えるか: エージェンシーと文化運動 ス・ガールルーム・カルチャーとその表現をどう考えるか: エージェンシーと文化運動 ス・加ルーム・カルチャーとその表現をどう考えるか: エージェンシーと文化運動 ス・加ルーム・カルチャーとその表現をどう考えるか: エージェンシーと文化運動 ス・満数論文の201(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 - 著名名 三井規裕・森川修・尾室真郷 ス・加州修・尾室真郷 ス・加州・大学人試研究ジャーナル 最勤論文の2001(デジタルオブジェクト識別子)なり 国際共著		
3 . 雑誌名	(同情級・はんまなは)	5
3 . 雑誌名	2 論文種類	5 発行任
3 . 雑誌名		
田原托哲学ニューズレター	( 胜成)raris is burning とホールルーム・カルナヤー	2023年
田原托哲学ニューズレター	2 htt:シ	6 早知レ早後の百
掲載論文の201 (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 高橋絵 2. 論文標題 ボールルーム・カルチャーとその表現をどう考えるか: エージェンシーと文化運動 3. 雑誌名 臨床哲学ニューズレター 掲載論文の201 (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 三井規裕・森川修・尾室真郷 2. 論文課題 高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価  3. 雑誌名 2. 論文課題 高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価  3. 雑誌名 大学入試研究ジャーナル  掲載論文の201 (デジタルオブジェクト識別子) なし 3. 雑誌名 大学入試研究ジャーナル  掲載論文の2001 (デジタルオブジェクト識別子) なし カープンアクセス 国際共著  4. 巻 33 33 33 34 34 35 36 37 36 37 38 38 38 38 38 38 38 38 38 38 38 38 38		
# オープンアクセス	<b>鼺床哲字ニュースレター</b>	98-101
# オープンアクセス		
# オープンアクセス	担影会さのアベノデンジャルナインジーケー効果フン	本誌の左伽
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 ・著者名 高橋紋 - 2 ・論文標題 ボールルーム・カルチャーとその表現をどう考えるか: エージェンシーと文化運動 - 5 ・発行年 2023年 - 2023年 - 3 ・雑誌名		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	なし	無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		
1. 著者名       4. 巻         高橋綾       5         2. 論文標題 ボールルーム・カルチャーとその表現をどう考えるか: エージェンシーと文化運動       5. 発行年 2023年         3. 雑誌名 臨床哲学ニューズレター       6. 最初と最後の頁 122-130         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       直読の有無 有         オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難       1. 著者名 三井規裕・森川修・尾室真郷         2. 論文標題 高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価       5. 発行年 2023年         3. 雑誌名 大学人試研究ジャーナル       6. 最初と最後の頁 278-283         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 有         オーブンアクセス       国際共著	オープンアクセス	国際共著
高橋綾       5         2 . 論文標題 ボールルーム・カルチャーとその表現をどう考えるか: エージェンシーと文化運動       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 臨床哲学ニューズレター       6 . 最初と最後の頁 122-130         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       直読の有無 有         オープンアクセス       国際共著 33         1 . 著者名 三井規裕・森川修・尾室真郷       4 . 巻 33         2 . 論文標題 高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 大学入試研究ジャーナル       6 . 最初と最後の頁 278-283         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       直読の有無 なし         オープンアクセス       国際共著	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
高橋綾       5         2 . 論文標題 ボールルーム・カルチャーとその表現をどう考えるか: エージェンシーと文化運動       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 臨床哲学ニューズレター       6 . 最初と最後の頁 122-130         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       直読の有無 有         オープンアクセス       国際共著 33         1 . 著者名 三井規裕・森川修・尾室真郷       4 . 巻 33         2 . 論文標題 高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 大学入試研究ジャーナル       6 . 最初と最後の頁 278-283         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       直読の有無 なし         オープンアクセス       国際共著		
2.論文標題	1 . 著者名	4 . 巻
2.論文標題	高橋綾	5
ボールルーム・カルチャーとその表現をどう考えるか: エージェンシーと文化運動 2023年 6. 最初と最後の頁 122-130 8	I-J II-JII/C	-
ボールルーム・カルチャーとその表現をどう考えるか: エージェンシーと文化運動 2023年 6. 最初と最後の頁 122-130 8	2 論文標題	5 発行年
3 . 雑誌名       6 . 最初と最後の頁 122-130         協献論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 有         オーブンアクセス       国際共著 -         1 . 著者名 三井規裕・森川修・尾室真郷       4 . 巻 33         2 . 論文標題 高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 大学入試研究ジャーナル       6 . 最初と最後の頁 278-283         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著		
臨床哲学ニューズレター     122-130       掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし     査読の有無       オープンアクセス     国際共著       1. 著者名     4. 巻       三井規裕・森川修・尾室真郷     33       2. 論文標題高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価     5. 発行年2023年       3. 雑誌名大学入試研究ジャーナル     6. 最初と最後の頁278-283       掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし     査読の有無       オーブンアクセス     国際共著	ホールルーム・ガルディーととの衣城でとうちんるが、 エーフェンノーと大心理動	20234
臨床哲学ニューズレター     122-130       掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし     査読の有無       オープンアクセス     国際共著       1. 著者名     4. 巻       三井規裕・森川修・尾室真郷     33       2. 論文標題高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価     5. 発行年2023年       3. 雑誌名大学入試研究ジャーナル     6. 最初と最後の頁278-283       掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし     査読の有無       オーブンアクセス     国際共著	3. 雑誌夕	6 是初と是後の百
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし		
なし     有       オープンアクセス     国際共著       1.著者名     -       三井規裕・森川修・尾室真郷     4.巻       2.論文標題     5.発行年       高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価     2023年       3.雑誌名     6.最初と最後の頁       大学入試研究ジャーナル     査読の有無       掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)     査読の有無       なし     有       オープンアクセス     国際共著	<b>端木賀字ニュースレダー</b>	122-130
なし     有       オープンアクセス     国際共著       1.著者名     -       三井規裕・森川修・尾室真郷     4.巻       2.論文標題     5.発行年       高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価     2023年       3.雑誌名     6.最初と最後の頁       大学入試研究ジャーナル     査読の有無       掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)     査読の有無       なし     有       オープンアクセス     国際共著		
なし     有       オープンアクセス     国際共著       1.著者名     -       三井規裕・森川修・尾室真郷     4.巻       2.論文標題     5.発行年       高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価     2023年       3.雑誌名     6.最初と最後の頁       大学入試研究ジャーナル     査読の有無       掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)     査読の有無       なし     有       オープンアクセス     国際共著	- 掲載論文のDOL(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセス       国際共著         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1.著者名       4.巻         三井規裕・森川修・尾室真郷       5.発行年         高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価       6.最初と最後の頁         3.雑誌名       6.最初と最後の頁         大学入試研究ジャーナル       査読の有無         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無         なし       有         オープンアクセス       国際共著	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1 . 著者名 三井規裕・森川修・尾室真郷       4 . 巻 33         2 . 論文標題 高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 大学入試研究ジャーナル       6 . 最初と最後の頁 278-283         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著	'& U	刊
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1 . 著者名 三井規裕・森川修・尾室真郷       4 . 巻 33         2 . 論文標題 高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 大学入試研究ジャーナル       6 . 最初と最後の頁 278-283         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著	オープンマクセフ	国際共革
1 . 著者名 三井規裕・森川修・尾室真郷       4 . 巻 33         2 . 論文標題 高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 大学入試研究ジャーナル       6 . 最初と最後の頁 278-283         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著		<b>二</b>
三井規裕・森川修・尾室真郷       33         2. 論文標題 高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価       5. 発行年 2023年         3. 雑誌名 大学入試研究ジャーナル       6. 最初と最後の頁 278-283         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著	コーノン / / ころ こはない、 人はコーノン / / ころが 四世	_
三井規裕・森川修・尾室真郷       33         2. 論文標題 高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価       5. 発行年 2023年         3. 雑誌名 大学入試研究ジャーナル       6. 最初と最後の頁 278-283         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著	1	Λ 券
2.論文標題 高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価       5.発行年 2023年         3.雑誌名 大学入試研究ジャーナル       6.最初と最後の頁 278-283         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著	= ::::	_
高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価2023年3.雑誌名 大学入試研究ジャーナル6.最初と最後の頁 278-283掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 有オープンアクセス国際共著	二	აა
高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価2023年3.雑誌名 大学入試研究ジャーナル6.最初と最後の頁 278-283掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 有オープンアクセス国際共著	2	c
3.雑誌名       6.最初と最後の頁         大学入試研究ジャーナル       278-283         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無         なし       有         オープンアクセス       国際共著	the state of the s	
大学入試研究ジャーナル       278-283         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無         なし       有         オープンアクセス       国際共著	尚寺子仪単位の大子見子会ノログラムに関する参加局校生の評価	2023年
大学入試研究ジャーナル       278-283         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無         なし       有         オープンアクセス       国際共著	고 Meti 선	6 早知レ星後の百
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)		
なし 有 オープンアクセス 国際共著	大字人試研究シャーナル	278-283
なし 有 オープンアクセス 国際共著		
なし 有 オープンアクセス 国際共著	「 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	本誌の右無
オープンアクセス 国際共著		
	<b>な</b> し	月
	ナープンフクセフ	<b>国際共</b> 装
<b>オーノファクセスではない、又はオーノファクセスか</b> 困難 -		<b>四际</b> 六百
	<b>オーノファクセ人ではない、又はオーノファクセ人か困難</b>	-

│ 1	
1 . 著者名     4 . 巻	
稲原美苗、中川雅道、津田英二 3	
A A A LITTE	_
2 . 論文標題 5 . 発行	
大学院生のための学際的探究コミュニティの創成と対話実践 2021年	
	1 DW - T
	と最後の頁
思考と対話 41-47	
	Arr
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有	
なし	有
オープンアクセス	
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名 4	
<b>梶谷真司</b>	
2 . 論文標題 5 . 発行·	年
共に考えることと共にいること 哲学対話による新たなコミュニティの可能性 2021年	:
3 . 雑誌名 6 . 最初	と最後の頁
実存思想論集XXXVI 哲学対話と実存 7-28	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有:	無
なし	有
オープンアクセス 国際共著	
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名 4 . 巻	
中川雅道 6	
171362	
2.論文標題 5.発行	年
「聴くこと」としてのケアリング 2022年	-
100.1	
3.雑誌名 6.最初	と最後の頁
研究紀要: 神戸大学附属中等 論集 1-6	C 取 及 0 六
ACM CALIBRITAL AND ACTION OF THE STATE OF TH	
	<u></u>
10.24546/81013133	有
10.2.10.10/010100	[7]
オープンアクセス 国際共著	
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	_
コーフファラ にん くはらめ リース はい コンファラ にんが 四天性	
1.著者名 4.巻	1
中川雅道	
2 - 終立極時	<b>在</b>
2.論文標題 5.発行	
書評:豊田光世『p4cの授業デザイン 共に考える探究と対話の時間のつくり方』 2021年	•
l l	<b>レ旦悠の</b> 互
2 http:///	こ 取仮 の 貝
3 . 雑誌名 6 . 最初	
3.雑誌名 思考と対話6.最初 57-58	l
思考と対話 57-58	411
思考と対話       57-58         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読の有:	
思考と対話 57-58	<del>無</del> 有
思考と対話       57-58         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読の有記         なし       ***	有
思考と対話       57-58         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読の有:	有

1.著者名	4 . 巻
三井規裕	12
2	F 384-7F
2.論文標題	5.発行年
オンライン同時双方向型グループ学習の促進を目的とした授業のデザインの検討	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
関西学院大学高等教育研究	115-121
<b>英四于他人于同专教育则</b> 尤	113-121
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	T
1.著者名	4 . 巻
中川雅道	4
2.論文標題	5 . 発行年
・ 調え	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
臨床哲学ニューズレター	30-37
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	   査読の有無
10.18910/86359	重成の有無 無
10.10910/00339	<del>///</del>
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	T
1.著者名	4 . 巻
稲原美苗・藤原雪・山川哲	2
2 . 論文標題	5.発行年
- 大学院生が企画運営する哲学カフェの社会教育学的実践 ~ 地域コミュニティでの対話の場作り~	2020年
八十帆王が正回建占する日子ガフェの社会教育子切失成 地域コミューティ この別品の場下り	20204
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
思考と対話	88 94
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	   査読の有無
なし	有
4. U	Ħ
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1. 著者名	4 . 巻
	4 · 술   2
高橋綾	
2.論文標題	5.発行年
当事者研究から哲学プラクティスが学ぶべきことー生きづらさや苦労を抱える人たちとの対話と探究ー	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
思考と対話	13 - 25
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス オープンアクセストしている(また、その予定である)	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-

1.著者名	4 . 巻
池田喬・山田圭一・佐藤暁	5-2
TOTAL HAT HEND	
2	F 發仁在
2.論文標題	5 . 発行年
哲学対話 : 言葉による言葉の吟味としての	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
フィルカル	6-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	<u>無</u>
40	<del>////</del>
1	FINALL ++
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
中川雅道	126
2 . 論文標題	5 . 発行年
障害を捉えなおす : 多様な考えと出会う子ども哲学	2021年
は日で近へはの) ・ 夕かはちんと山太フ丁とも首子	2021 <del>" </del>
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
立命館大学人文科学研究所紀要	3-33
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1.著者名	4 . 巻
池田喬・稲原美苗	2
心山向:相凉天田	2
2.論文標題	5.発行年
書評 ヤーコ・セイックラ、トム・アーンキル 『開かれた対話と未来 今この瞬間に他者を思いやる 』	2020年
	.
2 NF3+47	6 見知に見後の百
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
思考と対話	107-8
掲載論文のDOL(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
なし オープンアクセス	<b>無</b>
なし 	<b>無</b>
なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名	国際共著 - 4.巻
なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名	国際共著 - 4.巻
なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 稲原美苗、小西真理子、川崎唯史、中澤瞳	無 国際共著 - 4.巻 35
なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 稲原美苗、小西真理子、川崎唯史、中澤瞳 2 . 論文標題	無 国際共著 - 4.巻 35 5.発行年
なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 稲原美苗、小西真理子、川崎唯史、中澤瞳	無 国際共著 - 4.巻 35
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 稲原美苗、小西真理子、川崎唯史、中澤瞳  2 . 論文標題 男女共同参画・若手研究者支援ワークショップ報告 「家族におけるケアと依存」	無 国際共著 - 4.巻 35 5.発行年 2019年
なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 稲原美苗、小西真理子、川崎唯史、中澤瞳 2 . 論文標題	無 国際共著 - 4.巻 35 5.発行年
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 稲原美苗、小西真理子、川崎唯史、中澤瞳  2 . 論文標題 男女共同参画・若手研究者支援ワークショップ報告 「家族におけるケアと依存」  3 . 雑誌名	無 国際共著 - 4 . 巻 35 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 稲原美苗、小西真理子、川崎唯史、中澤瞳  2 . 論文標題 男女共同参画・若手研究者支援ワークショップ報告 「家族におけるケアと依存」	無 国際共著 - 4.巻 35 5.発行年 2019年
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 稲原美苗、小西真理子、川崎唯史、中澤瞳  2 . 論文標題 男女共同参画・若手研究者支援ワークショップ報告 「家族におけるケアと依存」  3 . 雑誌名	無 国際共著 - 4 . 巻 35 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 稲原美苗、小西真理子、川崎唯史、中澤瞳  2 . 論文標題 男女共同参画・若手研究者支援ワークショップ報告 「家族におけるケアと依存」  3 . 雑誌名 現象学年報	無 国際共著 - 4 . 巻 35 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 23-30
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 稲原美苗、小西真理子、川崎唯史、中澤瞳  2 . 論文標題 男女共同参画・若手研究者支援ワークショップ報告 「家族におけるケアと依存」  3 . 雑誌名	無 国際共著 - 4 . 巻 35 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセス	無 国際共著 - 4 . 巻 35 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 23-30 査読の有無
なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 稲原美苗、小西真理子、川崎唯史、中澤瞳  2 . 論文標題 男女共同参画・若手研究者支援ワークショップ報告 「家族におけるケアと依存」  3 . 雑誌名 現象学年報	無 国際共著 - 4 . 巻 35 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 23-30
オープンアクセス	無 国際共著 - 4.巻 35 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 23-30 査読の有無
オープンアクセス	無 国際共著 - 4 . 巻 35 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 23-30 査読の有無

〔学会発表〕 計49件(うち招待講演 22件/うち国際学会 15件)
1.発表者名
INAHARA Minae
2.発表標題
Comment for Kathleen Lennon and Racel Alsop
3.学会等名
「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化と教育 本質主義の克服に向けて (招待講演)(国際学会)
4 . 発表年
2024年
1.発表者名
稲原美苗
2.発表標題
「ケアの倫理」と当事者性の重なり ある障害者の葛藤からケアと依存のつながりを考えるー
3 . 学会等名
第74回日本倫理学会大会 共通課題「ケア」(招待講演)
4.発表年
2023年
1.発表者名
INAHARA Minae
2.発表標題
Phenomenology of Dialogue: The Significance of Speaking about One's Own Experiences and Thoughts in One's Own Words.
3.学会等名
Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)
A - 改丰年
4. 発表年
2023年
1.発表者名
I . 光极自有 IKEDA Takashi
INEDIT INNOTE
2.発表標題
Philosophy for Children and Empowerment
3.学会等名
3.子云寺石 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)
ייים אף סייייףספיניייי סוי דווויספסיף פונייים ביייים בייים ביייים בייים ביייים ביייים ביייים בייים ביים בייים בייים בייים בייים בייים ביים בייים ביים ביים בייים ביים ביי
4.発表年
2023年

1.発表者名
KAJITANI Shinji
2.発表標題
Practice of Philosophy Dialogue in the Part-time High School
3 . 学会等名
Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)
4 . 発表年
2023年
1.発表者名
TSUDA Eiji
2.発表標題
The Stories of Self of Students with Intellectual Disabilities Told with the Traditional Students in Kobe University Program
for Inclusion
3 . 学会等名
Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)
4.発表年
2023 <del>F</del>
2025—
1.発表者名
1.発表者名 NAKAGAWA Masamichi
NAKAGAWA Masamichi
NAKAGAWA Masamichi
NAKAGAWA Masamichi 2 . 発表標題
NAKAGAWA Masamichi
NAKAGAWA Masamichi 2 . 発表標題
NAKAGAWA Masamichi 2 . 発表標題
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3 . 学会等名
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3 . 学会等名
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4 . 発表年
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4 . 発表年 2023年
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4 . 発表年 2023年
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4 . 発表年 2023年
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4 . 発表年 2023年
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4 . 発表年 2023年
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4 . 発表年 2023年  1 . 発表者名 TAKAHASHI Aya
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4 . 発表年 2023年  1 . 発表者名 TAKAHASHI Aya
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4 . 発表年 2023年  1 . 発表者名 TAKAHASHI Aya
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4 . 発表年 2023年  1 . 発表者名 TAKAHASHI Aya
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4 . 発表年 2023年  1 . 発表者名 TAKAHASHI Aya
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4 . 発表年 2023年  1 . 発表者名 TAKAHASHI Aya
NAKAGAWA Masamichi  2. 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3. 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4. 発表年 2023年  1. 発表者名 TAKAHASHI Aya  2. 発表標題 Dialogue and Co-inquiry and Transferable Skills Training in Graduate School of Humanities, Osaka University
NAKAGAWA Masamichi  2. 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3. 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4. 発表年 2023年  1. 発表者名 TAKAHASHI Aya  2. 発表標題 Dialogue and Co-inquiry and Transferable Skills Training in Graduate School of Humanities, Osaka University  3. 学会等名
NAKAGAWA Masamichi  2. 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3. 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4. 発表年 2023年  1. 発表者名 TAKAHASHI Aya  2. 発表標題 Dialogue and Co-inquiry and Transferable Skills Training in Graduate School of Humanities, Osaka University
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4 . 発表年 2023年  1 . 発表者名 TAKAHASHI Aya  2 . 発表標題 Dialogue and Co-inquiry and Transferable Skills Training in Graduate School of Humanities, Osaka University  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4 . 発表年 2023年  1 . 発表者名 TAKAHASHI Aya  2 . 発表標題 Dialogue and Co-inquiry and Transferable Skills Training in Graduate School of Humanities, Osaka University  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4 . 発表年
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4 . 発表年 2023年  1 . 発表者名 TAKAHASHI Aya  2 . 発表標題 Dialogue and Co-inquiry and Transferable Skills Training in Graduate School of Humanities, Osaka University  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)
NAKAGAWA Masamichi  2 . 発表標題 Care, Love, Community in p4c  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4 . 発表年 2023年  1 . 発表者名 TAKAHASHI Aya  2 . 発表標題 Dialogue and Co-inquiry and Transferable Skills Training in Graduate School of Humanities, Osaka University  3 . 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)  4 . 発表年

1. 発表者名
HOMMA Naho
2.発表標題
2 : সংবাদ্ধির Do Not Abuse the Idea of "Tojisha": on Minority, Positionality and Intersectionality
bo Not Abuse the Tues of Tojisha . On willotty, Positionality and intersectionality
3 . 学会等名
Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority(国際学会)
4.発表年
2023年
1.発表者名
INAHARA Minae
2.発表標題
Phenomenology of Pain: A Dialogue between Self and Art(ist)
0 WAME
3 . 学会等名
哲学系諸学会国際連合(FISP)と日本の女性哲学研究者 の対話(招待講演)(国際学会)
4.発表年
4 . 光表午 2023年
2023年
1.発表者名
IKEDA Takashi & INAHARA Minae
2. 発表標題
Philosophical Dialogue and Empowerment
Thribodophroat Stategae and Emponerment
3.学会等名
子どもの哲学国際学会ICPIC(International Council of Philosophical Inquiry with Children)第20回東京大会(国際学会)
4 . 発表年
2022年
1 . 発表者名
INAHARA Minae
2.発表標題
A Dialogue between the Body Schema and the Body Image: A Case of Mild Athetoid Cerebral Palsy
3 . 学会等名
国際シンポジウム「Face-Body Studies Wrap-up Symposium」Day 2 "Body Schema, Arts, and Social Participation"(招待講演)
4 . 発表年
2022年

1.発表者名 三井規裕,・尾室真郷・森川修
2 . 発表標題 高校生の資質・能力を育成する研修プログラムの検討 ー多様な進路を選択する高等学校の生徒を対象とした高大接続の試みー
3 . 学会等名 日本リメディアル教育学会東海・北陸支部2022年度大会
4 . 発表年 2022年
1 . 発表者名 魚住洋一・高橋綾・ほんまなほ
2.発表標題 生き延びることの倫理 非規範的なジェンダー・セクシュアリティとボールルーム・カルチャー
3 . 学会等名 第75階関西倫理学会 ワークショップ
4 . 発表年 2022年
1.発表者名 三井規裕、稲原美苗
2.発表標題 哲学対話におけるファシリテーターの役割の検討 ビジネス分野との比較を通じて一
3 . 学会等名 日本哲学プラクティス学会第3回大会
4 . 発表年 2021年
1.発表者名 INAHARA, Minae
2 . 発表標題 Phenomenological Expressions of Pain: A Sense of Movement and Onomatopoeic Expressions in Japanese
3.学会等名 TWO CULTURES: TWO SENSES: How the arts and humanities can contribute to Healthcare Education and facilitate improved intercultural understanding in Japan and the UK(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年 2021年

1.発表者名		
1.光衣有石   梶谷真司		
2.発表標題 オンライン哲学対話 日本・ドイツ生活文化の未来 第2回 日独の「住まい」を哲学する~Anne & Sebastian Gross氏との対談		
オフライフ日子対応 日本・「イフ王/6文化の木木 第2回 日弦の Eよい」を日子する Mille & Sebastian Glossにとの対象		
3.学会等名		
ゲーテ・インスティテュート東京(招待講演)		
4.発表年		
1		
1.発表者名		
稲原美苗		
2.発表標題		
当事者研究とフェミニスト現象学		
2		
3.学会等名 療法士の当事者研究(招待講演)		
「原伝工♥→自研九(10付确供) 		
2021年		
1. 発表者名		
稲原美苗		
2 . 発表標題		
石田絵美子著『「進化」する身体 筋ジストロフィー病棟における語りの現象学』を読んで		
3 . 学会等名		
『「進化」する身体 - 筋ジストロフィー病棟における語りの現象学』合評会(招待講演)		
4.発表年		
2021年		
1.発表者名		
2 改字 価度		
2 . 発表標題 第1回哲学講座「オンライン哲学対話 人生の目的とは何か」		
お「日ロナ時代 カノノコノロチ以前 八土の日时では門か」 		
3. 学会等名		
碧南市哲学たいけん村無我苑(招待講演)		
4 · 光农中   2021年		

. With 6
1.発表者名
梶谷真司
2.発表標題
第2回哲学講座「オンラインレクチャー&哲学対話 宗教とは何か」
ALCIG THE GOOD OF CLEANING MACHENIA
3. 学会等名
碧南市哲学たいけん村無我苑(招待講演)
4 . 発表年
2021年
1.発表者名
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
(北口共刊
2 . 発表標題
第3回哲学講座「オンライン哲学対話 記憶」
からロロナ時任・グンフェンロチが出 むじご
3.学会等名
碧南市哲学たいけん村無我苑(招待講演)
aliana i tean ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
4 . 発表年
2021年
202. 1
1.発表者名
根谷真司
NCH 25-7
2.発表標題
第4回哲学講座「オンライン哲学対話 コロナ禍のなか思うこと」
3.学会等名
碧南市哲学たいけん村無我苑(招待講演)
4.発表年
2021年
1.発表者名
根谷真司
2. 発表標題
第5回哲学講座「オンライン哲学対話 お金で幸せは買えるのか」
3. 学会等名
碧南市哲学たいけん村無我苑(招待講演)
4. 発表年
2021年

a 75±72.67
1 . 発表者名   梶谷真司
UP ID SECTION IN THE PROPERTY OF THE PROPERTY
つ 改字価時
2 . 発表標題 第6回哲学講座「オンラインレクチャー&哲学対話 葬式とは何か」
おいロロナ時圧 カノノコノレフノド ベロナが印 弁がにはじが]
3.学会等名   碧南市哲学たいけん村無我苑(招待講演)
右角中省子にVIII)の作無状地(有付确决) 
2022年
1.発表者名
据谷真司 
2.発表標題
「哲学対話ワークショップ 問う・考える・語る・聞くを知る」
3 . 学会等名
公益財団法人豊橋文化振興財団(招待講演)
4 . 完衣中   2021年
40 <b>4</b> 17
1.発表者名
稲原美苗
哲学対話とつながり~マイノリティ・コミュニティ創成の可能性を考える~
- 3・1 A 3 G - UTCP 哲学×デザイン プロジェクト33 哲学対話とコミュニティづくり~一緒に考えることでできるつながりとは?~(招待講演)
4.発表年
2021年
1.発表者名
2.光衣信題    「障害はどのような経験なのか」 生きづらさのフェミニスト現象学
「十日 160 こいら ノらが正教 ちいけ 」 エビ とうこの ノエヘーハー がみて
2
│3.学会等名 │ 第7回『フェミニスト現象学入門』読書会(招待講演)
2022年

1.発表者名 中川雅道
2 . 発表標題 対話の倫理とは?
3.学会等名 日本倫理学会主題別討議「倫理的思考と道徳教育」(招待講演)
4.発表年 2021年
1.発表者名 中川雅道、上村幸
2.発表標題 学校と教科書と教員と:本当に学校は教育的なのか?
子校と教付首と教員と、平当に子校は教育的なのが、
3.学会等名
日本哲学会第80回大会、哲学教育ワークショップ「小中学校の特別な教科「道徳」の教科書と使い方を考える」
4 . 発表年
2021年
1.発表者名
中川雅道
2 . 発表標題
臨床哲学と不登校
3.学会等名
オンライン・シンポジウム「不登校と哲学プラクティス」
4 . 発表年
2021年
1.発表者名
稲原美苗・中川雅道・津田英二
2.発表標題
大学院生のための学際的探究コミュニティの創成と対話実践
3.学会等名
3 . 子云寺石 第6回哲学プラクティス連絡会
4.発表年
2020年

1.発表者名 稲原美苗
2.発表標題 哲学プラクティスと当事者研究~エンパワメントの技術~
3 . 学会等名 オンライン・シンポジウム「不登校と哲学プラクティス」
4.発表年 2021年
1.発表者名 据谷真司
2 . 発表標題 思考の自由と排除なき共同性 哲学対話による新たなコミュニティの可能性
3.学会等名 第36回実存思想協会臨時大会講演会「哲学対話と実存」
4 . 発表年 2020年
1 . 発表者名 梶谷真司・梅谷薫(心療内科医)
2 . 発表標題 薬になる言葉 ~ 医師と哲学者と考える"病と癒し"
3 . 学会等名 IWキャンパス:アート&哲学対話 vol. 5
4 . 発表年 2020年
1 . 発表者名 紫原明子・梶谷真司
2 . 発表標題 誰とも同じではない私が、誰とも同じでない私のままでいることを許されるために
3.学会等名 もぐら談話第3回
4 . 発表年 2020年
2020 <del>1</del>

1.発表者名
梶谷真司
2.発表標題
コロナの中の日常~生き方の変化と向き合う
3 . 学会等名
UTCP公開哲学セミナー
4 . 発表年
2020年
2020-
. Tetal
1. 発表者名
INAHARA, Minae
2.発表標題
The Impact of the New Coronavirus (COVID-19) on the Lives of People with Disabilities in Japan: Case Studies
The impact of the New Coronavirus (COVID-19) on the Lives of People with Disabilities in Japan. Case Studies
3.学会等名
Pandemic in the North Project - first seminar (招待講演)(国際学会)
,
4 . 発表年
2020年
2020年
1.発表者名
稲原美苗、山川哲、井手雪
2.発表標題
大学院生が企画・運営する哲学カフェの社会教育学的実践 - 地域コミュニティでの対話の場づくりにおける学び -
3 . 学会等名
第5回哲学プラクティス連絡会
パマーロュティノノーハ左側の
4
4 . 発表年 2019年
2019年
2019年
2019年 1 . 発表者名
2019年
2019年 1 . 発表者名
2019年 1 . 発表者名
2019年  1 . 発表者名 INAHARA, Minae
2019年  1 . 発表者名 INAHARA, Minae  2 . 発表標題
2019年  1 . 発表者名 INAHARA, Minae
2019年  1 . 発表者名 INAHARA, Minae  2 . 発表標題
2019年  1 . 発表者名 INAHARA, Minae  2 . 発表標題
1 . 発表者名 INAHARA, Minae  2 . 発表標題 顔認知の発達と障害と (Jonathan COLE氏への特定質問者として登壇)
1 . 発表者名 INAHARA, Minae  2 . 発表標題 顔認知の発達と障害と (Jonathan COLE氏への特定質問者として登壇)
2019年         1 . 発表者名 <ul> <li>INAHARA, Minae</li> </ul> 2 . 発表標題             顔認知の発達と障害と (Jonathan COLE氏への特定質問者として登壇)         3 . 学会等名
1 . 発表者名 INAHARA, Minae  2 . 発表標題 顔認知の発達と障害と (Jonathan COLE氏への特定質問者として登壇)
2019年         1 . 発表者名 INAHARA, Minae         2 . 発表標題 顔認知の発達と障害と (Jonathan COLE氏への特定質問者として登壇)         3 . 学会等名 日本心理学会第83回大会(国際学会)
2019年         1 . 発表者名 INAHARA, Minae         2 . 発表標題 顔認知の発達と障害と (Jonathan COLE氏への特定質問者として登壇)         3 . 学会等名 日本心理学会第83回大会(国際学会)         4 . 発表年
1 . 発表者名         INAHARA, Minae         2 . 発表標題         顔認知の発達と障害と (Jonathan COLE氏への特定質問者として登壇)         3 . 学会等名         日本心理学会第83回大会(国際学会)
2019年         1 . 発表者名 INAHARA, Minae         2 . 発表標題 顔認知の発達と障害と (Jonathan COLE氏への特定質問者として登壇)         3 . 学会等名 日本心理学会第83回大会(国際学会)         4 . 発表年
2019年         1 . 発表者名 INAHARA, Minae         2 . 発表標題 顔認知の発達と障害と (Jonathan COLE氏への特定質問者として登壇)         3 . 学会等名 日本心理学会第83回大会(国際学会)         4 . 発表年
2019年         1 . 発表者名 INAHARA, Minae         2 . 発表標題 顔認知の発達と障害と (Jonathan COLE氏への特定質問者として登壇)         3 . 学会等名 日本心理学会第83回大会(国際学会)         4 . 発表年

1.発表者名
I.完衣有台 NAKAGAWA, Masamichi
THE COUNTY, INCOMITOR TO
2. 発表標題
Uncovering Prejudices Towards People with Disabilities: philosophy for children Can Create a Diverse Community
3.学会等名
Pacific Rim International Conference on Disability & Diversity(国際学会)
A アルキケ
4 . 発表年 2020年
20204
1 . 発表者名
HOMMA, Naho
2.発表標題
Feminist Clinical Philosophy and Creative Writing
3 . 学会等名
International Conference on Clinical Philosophy, Taiwan,(国際学会)
4.発表年
2019年
1.発表者名
中川雅道
<b>中川维度</b>
2 . 発表標題
対話の促し
3.学会等名
立命館大学衣笠総合研究機構間文化現象学センター研究会
4. 発表年
2020年
4 改丰业权
1.発表者名
村山留美子
2.発表標題
リスクと暮らしとコミュニティ 被災地域で見てきたこと
3 . 学会等名
・ デムサロ 被災地をめぐる哲学対話 科学・技術・暮らし・芸術・コミュニケーションを手がかりに 本科研プロジェクトのクローズド研究会
4 . 発表年
2020年

1 . 発表者名 稲原美苗
2 . 発表標題 観る、感じる、聞く、対話する 東北の被災地で自己を見つめ直す
3 . 学会等名 被災地をめぐる哲学対話 科学・技術・暮らし・芸術・コミュニケーションを手がかりに 本科研プロジェクトのクローズド研究会
4.発表年 2020年
1.発表者名 根谷真司
2.発表標題対話によるコミュニティのつくり方
3 . 学会等名
第6回町田市生涯学習センター交流会「町田でカフェだよ!全員集合」(招待講演)
4.発表年
2019年
1.発表者名
梶谷真司
2 . 発表標題 対話型哲学の可能性 ~ 教育から地域づくりまで」
3.学会等名 SDGs企業戦略フォーラム(国連大学)(招待講演)
4.発表年 2020年
1 . 発表者名 梶谷真司、稲原美苗、伊是名夏子、藤原雪、PECKITT, Michael Gillan
2 . 発表標題 障壁のある人生をどのように生きるのか?
3 . 学会等名 <哲学×デザイン>プロジェクト18、 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属「共生のための国際哲学研究センター」(UTCP)
4.発表年 2020年

1.発表者名 稲原美苗		
│ 2.発表標題 │ 哲学対話~「生きづらさ」を自分で「考える・語る・表現する」		
Trial Terror edition in the second of		
3.学会等名 日本ファシリテーション協会関西支部イベント「わかりあえないことから、はじめる。インクルーシブとファシリテーション」(招待講演)		
4 . 発表年 2020年		
〔図書〕 計8件 1 . 著者名	4.発行年	
津田英二	2023年	
2.出版社	□ 4公 ∧° こゞ*tı	
2. 山城社	5 . 総ページ数 240	
3 . 書名		
生涯学習のインクルージョン ー知的障害者がもたらす豊かな学び		
1.著者名	4.発行年	
稲原美苗、川崎唯史、中澤瞳、宮原優(編著) 稲原美苗(四章担当)池田喬(八章担当)	2023年	
2.出版社	5.総ページ数	
ナカニシヤ出版	336	
3 . 書名 フェミニスト現象学 - 経験が響きあう場所へー		
フェミニスト現象子 - 経験が善さのづ場所へ一		
1.著者名	4.発行年	
池田喬、堀田義太郎	2021年	
2.出版社	5.総ページ数	
アルパカ	272	
│ 3.書名 │  差別の哲学入門(シリーズ・思考の道先案内1)		

1 . 著者名 稲原美苗、川崎唯史、中澤瞳、宮原優(編著) 池田喬(7章、12章担当)稲原美苗(コラム 1 、8章、13 章担当)	4 . 発行年 2020年
2.出版社 ナカニシヤ出版	5.総ページ数 195
3.書名 フェミニスト現象学入門 経験から「普通」を問い直す	
1 . 著者名 Deborah Padfield & Joanna M. Zakrzewska (eds.) 稲原美苗(12章担当)	4 . 発行年 2021年
2. 出版社 UCL Press	5.総ページ数 409
3.書名 Encountering Pain Hearing, seeing, speaking	
1.著者名 河野哲也(編) 梶谷真司(2章3担当)中川雅道(2章1、3章5.6担当)	4 . 発行年 2020年
2 . 出版社 ひつじ書房	5.総ページ数 363
3 . 書名 ゼロからはじめる哲学対話:哲学プラクティスハンドブック	
1 . 著者名 寺田俊郎(編著) 中岡成文(監修) 中川雅道(3章、終章担当)	4 . 発行年 2021年
2. 出版社 大阪大学出版会 3. 書名	5.総ページ数 336
3.音石 哲学対話と教育	
	<b>.</b>

1.著者名 村田和代(編著) 中川雅道(1章担当)	4 . 発行年 2020年
2 . 出版社 ひつじ書房	5.総ページ数 <sup>266</sup>
3.書名 これからの話し合いを考えよう	

#### 〔産業財産権〕

tokyo.ac.jp/events/2023/09/wrapup\_symposium\_on\_philosophy/

## 〔その他〕

哲学×デザイン プロジェクト19 「障壁のある人生をどのように生きるのか」https://utcp.c.u-tokyo.ac.jp/events/2020/01/post\_203/オンライン・シンポジウム「不登校と哲学プラクティス」https://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/z/news\_and\_event/2021-04-02-23 オンライン・シンポジウム「当事者「家族」のための哲学対話 ~家族の「普通」を問い直す~」 https://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/z/news\_and\_event/2023-02-23-547 研究集会「G.ビースタの P4C 批判とその行方 哲学プラクティスの現在への一視角」https://utcp.c.u-tokyo.ac.jp/events/2023/07/g/哲学対話と当事者研究についての総括シンポジウム Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority https://utcp.c.u-

6.研究組織

6	. 丗乳組織		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	松岡 広路	神戸大学・人間発達環境学研究科・教授	
研究分担者	(Matsuoka Koji)		
	(10283847)	(14501)	
	村山 留美子	神戸大学・人間発達環境学研究科・准教授	
研究分担者	(Murayama Rumiko)		
	(20280761)	(14501)	
研究分担者	津田 英二 (Tsuda Eiji)	神戸大学・人間発達環境学研究科・教授	
	(30314454)	(14501)	

6.研究組織(つづき)

6	. 研究組織(つづき)		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	梶谷 真司 (Kajitani Shinji)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授	
	(50365920)	(12601)	
研究分担者	高橋 綾 (Takahashi Aya)	大阪大学・大学院人文学研究科(人文学専攻、芸術学専攻、 日本学専攻)・講師	
	(50598787)	(14401)	
研究分担者	池田 喬 (Ikeda Takashi)	明治大学・文学部・専任教授	
	(70588839)	(32682)	
研究分担者	三井 規裕 (Mitsui Noriyasu)	桃山学院大学・共通教育機構・准教授	
	(70844471)	(34426)	
研究分担者	本間 なほ (ほんまなほ) (Homma Naho)	大阪大学・COデザインセンター・教授	
_	(90303990)	(14401)	
研究分担者	中川 雅道 (Nakagawa Masamichi)	神戸大学・附属学校部・附属中等教育学校教諭	
	(00842923)	(14501)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	(Ohman May-Britt)	ルレオ工科大学・上級研究員	

6.研究組織(つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者		八ワイ大学マノア校・教授	

## 7.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

ļ
ļ
ļ
ļ
-

# 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------